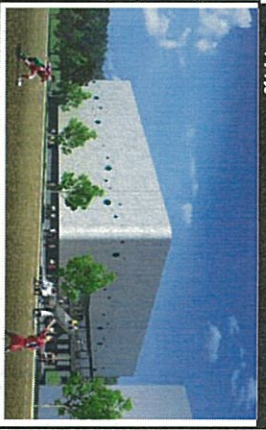


CASBEE⁺-建築(新築)

評価結果

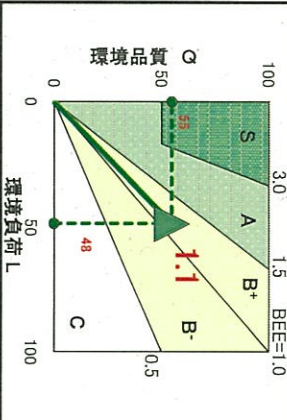
■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築設計2016年版, CASBEE-建築設計2016年版, CASBEE-建築設計2016年版, 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(N2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	早稻田大学本庄高等学院Ⅲ期(体育)	階数	地上9F
建設地	埼玉県本庄市	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	180人
地域区分	5地域	年間使用時間	XXX時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年2月	評価の実施日	2018年03月8日
敷地面積	63,078 m ²	作成者	中村孝久美
建築面積	2,096 m ²	確認日	
延床面積	4,175 m ²	確認者	
			

2-1 建築物の環境効率(BEE)ラシケルCO₂温暖化影響チャート

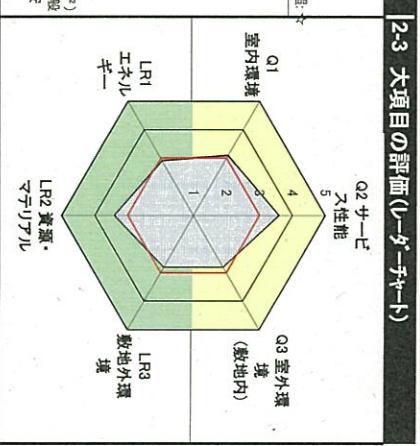
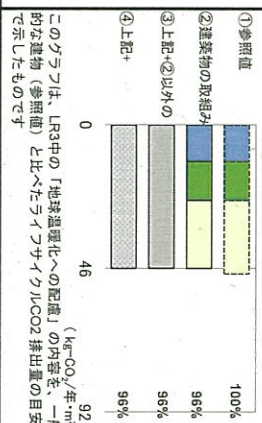
BEE = 1.1

S:★★★★★ A:★★★★★ B:★★★★ B+:★★★ C:★★



30%★★★★☆ 60%☆☆☆☆☆ 80%☆☆☆☆☆ 100%☆☆☆☆

標準計算

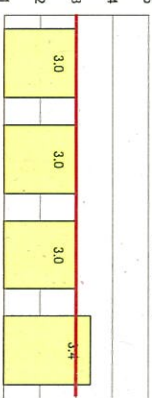


2-2 ラシケルCO₂温暖化影響チャート

Q 環境品質

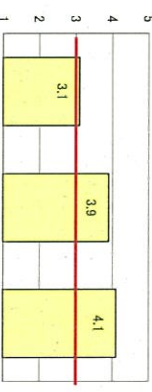
Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1



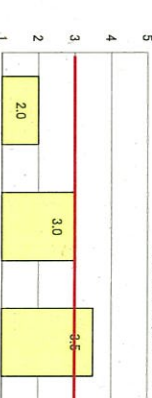
Q2 サード性能

Q2のスコア = 3.6



Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.8



LR 環境負荷低減性

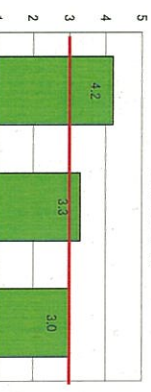
LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9



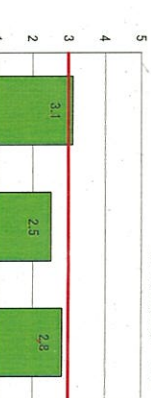
LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4



LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8



3 設計上の配慮事項

総合
ペリメーターゾーンを少なくするために建物形状を矩形とし、外皮面積を最低限とした。また、建物四周に設備配管スペースを回すことで、設備機器の更新性に配慮した。内装・外装はコンクリート打ち放し仕上げとし、防汚性に配慮した塗装を施している。

その他
特になし

Q1 室内環境
一人当たりの換気量を30CMHで設定、外気取入れ口と排気口を6m以上離隔、テリナーのCO2監視などに配慮した。

Q2 サード性能
耐震計算ソフトの重要度係数を1.5とし、十分な耐力と剛性を確保した。内外装ともに防汚性の高い塗装をほどこし、耐久性に配慮した。

Q3 室外環境 (敷地内)
既存建物に平行に計画し、現状の歩行者空間を損なわないよう配慮した。体育館建設予定であった敷地への計画なので、周囲樹木は残し既存の景観に配慮した。

LR1 エネルギー
窓ガラスを最小限使用し、建物外皮の熱負荷抑制を最大化済み、自然採光・自然採光を可能にすることで、省エネルギーにも配慮した。

LR2 資源・マテリアル
節水器具を積極的に採用し、雨水利用システムを導入することで、水資源保護に配慮した。

LR3 敷地外環境
特になし

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ラシケルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用・改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 3/56

CASBEE「建築(新築)2016年版、CAS
早稻田大学本庄高等学院血翔(体育館)新築工事」

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE「建築(新築)2016年版、C
■評価シート: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

スコアシート		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
配属項目								
Q 建築物の環境品質								3.1
Q1 室内環境					0.40		-	3.0
1 音環境					3.0	0.15	-	
1.1 室内騒音レベル					3.0	0.40	3.0	
1.2 遮音					3.0	0.40	-	
1 開口部遮音性能					3.0	0.30	3.0	
2 昇壁遮音性能					3.0	0.30	3.0	
3 昇床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	0.20	3.0	
4 昇床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	0.20	3.0	
1.3 吸音					3.0	0.20	3.0	
2 温熱環境					3.0	0.35	-	3.0
2.1 室温制御					3.0	0.50	-	
1 室温					3.0	0.60	3.0	
2 外皮性能					3.0	0.40	3.0	
3 ソーシ別制御性能					3.0	-	-	
2.2 湿度制御					3.0	0.20	3.0	
2.3 空調方式					3.0	0.30	3.0	
3 光・照環境					3.0	0.25	-	3.0
3.1 屋光利用					3.0	0.30	-	
1 屋光率					3.0	0.60	3.0	
2 方位別開口					-	-	3.0	
3 屋光利用設備					3.0	0.40	3.0	
3.2 グレリア対策					3.0	0.30	-	
1 屋光制御					3.0	1.00	3.0	
3.3 照度					3.0	0.15	3.0	
3.4 照明制御					3.0	0.25	3.0	
4 空気質環境					3.4	0.25	-	3.4
4.1 発生源対策					3.0	0.50	-	
1 化学汚染物質					3.0	1.00	3.0	
4.2 換気					3.0	0.30	-	
1 換気量					4.0	0.33	3.0	
2 自然換気性能					1.0	0.33	3.0	
3 取り入れ外気への配慮					4.0	0.33	3.0	
4.3 運用管理					5.0	0.20	-	
1 CO ₂ の監視					5.0	0.50	-	
2 喫煙の制御					5.0	0.50	-	
Q2 サービズ性能					-	0.30	-	3.6
1 機能性					3.1	0.40	-	3.1
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	-	
1 広さ・収納性					3.0	-	3.0	
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	3.0	
3 バリアフリー計画					3.0	1.00	-	
1.2 心理性・快適性					3.0	0.30	-	
1 広さ感・景観					3.0	0.50	3.0	
2 リノベーション					3.0	-	-	
3 内装計画					3.0	0.50	-	
1.3 維持管理					3.5	0.30	-	
1 維持管理に配慮した設計					4.0	0.50	-	
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	
2 耐用性・信頼性					3.9	0.30	-	3.9
2.1 耐震・免震・制震・制振					4.6	0.50	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					5.0	0.80	-	
2 免震・制震・制振性能					3.0	0.20	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.2	0.30	-	
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.20	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.20	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.10	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					5.0	0.10	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.20	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20	-	
2.4 信頼性					3.4	0.20	-	
1 空調・換気設備					3.0	0.20	-	
2 給排水・衛生設備					5.0	0.20	-	
3 電気設備					3.0	0.20	-	
4 機械・配管支持方法					4.0	0.20	-	
5 通信・情報設備					2.0	0.20	-	
環境配慮設計の概要記入欄				耐震計算ルート的重要度係数を基準法の1.5倍としている	3.9	0.30	-	3.9
環境配慮設計の概要記入欄				屋外露出ダクトはガルバリウム鋼板としている	3.0	0.20	-	3.0

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	1 階高のゆとり	1階の階高を4500mmとしている。	4.1	0.30	-	-	4.1	
		2 空間の形状・自由さ		5.0	0.60	3.0	-		
		3.2 荷重のゆとり	床設計荷重をおおむね3500N/㎡で設定している。	3.0	0.40	3.0	-		
	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性	配管ルートを建物の周囲に平面的に回し、配管の更新性に配慮	3.4	0.40	-	-		
		2 給排水管の更新性	配管ルートを建物の周囲に平面的に回し、配管の更新性に配慮	4.0	0.20	-	-		
		3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
		4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-		
		5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-		
		6 バッテリ・UPS・サーバーの確保		3.0	0.20	-	-		
	Q3 室外環境(敷地内)	1 生物多様性の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.8	
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0		
3 地域性・デザインへの配慮		建物周囲にバルコニー底空間を計画	3.5	0.30	-	-	3.5		
LR 建築物の環境負荷低減性	LR1 エネルギー	1 建物外皮の熱負荷抑制	外壁躯体厚を取り熱負荷抑制に配慮	4.0	0.40	-	-	2.9	
		2 自然エネルギー利用	ハイブリッドシステムによる自然採光、ナイトハーブが可能	4.0	0.10	-	-	4.0	
LR2 資源・エネルギー	1 水資源保護	1.1 節水	節水器具を採用している	4.2	0.20	-	-	4.2	
		1.2 雨水利用・雑排水等の利用	雨水濾過設備を採用し、雨水利用率80%以上としている	4.4	0.60	-	-		
	2 非再生性資源の使用量削減	1 雨水利用システム導入の有無		5.0	0.70	-	-		
		2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-		
	3 汚染物質含有材料の使用回避	3.1 有害物質を含まない材料の使用	1 消火剤		3.0	0.50	-	-	
			2 発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
			3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
		3.2 フロン・ハロンの回避	1 内装外装ともにRoH打ち出し仕上げるため、躯体=仕上げるという計画		5.0	0.22	-	-	
			2		3.0	0.20	-	-	3.0
			3		3.0	0.30	-	-	
LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮	1 地域環境への配慮		3.1	0.33	-	-	2.8	
		2 地域環境への配慮		2.5	0.33	-	-	3.1	
		2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	2.5	
	2 地域環境悪化の改善	2.2 温熱環境悪化の改善	1 雨water排水負荷低減		2.0	0.50	-	-	
			2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
			3 交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
		2.3 地域インフラへの負荷抑制	1 廃棄物処理負荷抑制	必要な仕舞場の設置(既存にて既に計画済み)	5.0	0.25	-	-	
			2		2.0	0.25	-	-	
			3		2.0	0.25	-	-	
	3 周辺環境への配慮	3.1 騒音・振動・悪臭の防止	1 騒音		2.8	0.33	-	-	2.8
2 振動				3.0	0.40	-	-		
3 悪臭				3.0	0.33	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制	1 風害の抑制		1.8	0.40	-	-			
			1.0	0.60	-	-			
			3.0	0.20	-	-			
	2 砂塵の抑制		3.0	0.20	-	-			
			3.0	0.20	-	-			
			3.0	0.20	-	-			
3.3 光害の抑制	1 屋外照明及び屋内照明の5m外に遮れる光への対策	広告物照明は設置していない	4.4	0.20	-	-			
	2 屋外の建物外壁による反射光(のしや)への対策		5.0	0.70	-	-			

CASBEE埼玉県 重点項目シート

■使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要			
建物名称	早稲田大学本庄高等学校二期(体育館)新築工事	BEE	1.1
		BEEランク	★★★★

2 重点項目の評価				
ライフサイクルCO2の削減のスコア 緑の保全・創出のスコア				
3.1	+	2.6	=	5.7
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満	良い 6.0以上	非常によい 6.8以上	すばらしい 8.0以上	

3 重点項目についての環境配慮概要		スコア平均
(1) ライフサイクルCO2の削減		3.1
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>		
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア 3.1
<配慮した内容を記述>		
(2) 緑の保全・創出		スコア平均 2.6
<CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア>		
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア 2.0
Q3 室外環境(敷地内)	3. 2 敷地内温熱環境の向上	スコア 4.0
LR3 敷地外環境	2. 2 温熱環境悪化の改善	スコア 2.0
<配慮した内容を記述>		

: 入力欄